

キッズパートナー文京駕籠町・自己評価〔園長〕

(評価基準) A：取り組みが理想的な状態 B：取り組みがほぼ出来ている
C：取り組みにもう少し努力が必要 D：今後十分な努力が必要

保育士 7 名

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
1 園の理念・保育方針の理解						
	○園の保育理念や保育方針を理解している。	3	4	0	0	B
2 保育所保育指針の理解						
	○保育所保育指針を理解していると思う	3	3	1	0	B
3 全体的な計画の理解						
	○園の全体的な計画を理解していると思う。	3	4	0	0	B
4 子どもの発達援助						
	○一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	3	4	0	0	B
	○定期的に指導計画の評価・見直しを行いその結果を指導計画に反映している。	2	5	0	0	B
	○指導計画を作成する際、園の理念や保育課程を基にして作成している。	2	5	0	0	B
	○一人ひとりの子どもに関する発達状況、保育目標についての記録がある。	6	1	0	0	A
	○一人ひとりの子どもに関する情報を周知している。	4	3	0	0	A
	○一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について話しあう為のケース検討を必要に応じて実施している。	0	6	1	0	B
5 健康管理						
	○保健年間計画に基づき子どもの健康管理を行っている。	3	2	2	0	B
	○身体測定や健康診断の結果について定期的に記録し、子どもの健康状態を保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	3	4	0	0	B
	○乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防に努めている。	7	0	0	0	A
	○感染症の予防に努め保護者にも伝達している。	5	2	0	0	A
	○登園時は視診や検温により子ども一人ひとりの健康状態を確かめている。	6	1	0	0	A
6 食事						
	○食育を通して子どもたちが楽しく食べ、その中で食べる意欲が育つように配慮している。	6	0	1	0	A
	○調理担当者と子どものコミュニケーションが図れるようにしている。	5	2	0	0	A
	○月齢に応じた食事の量や形態(固さや大きさ)を理解し成長を促すことが出来る。	4	3	0	0	A
	○その日の喫食(哺乳量)を保護者に伝えている。	5	2	0	0	A
	○食事のマナーの基本的な考え方を理解し、子どもや保護者に伝えることが出来る。	4	3	1	0	A
	○保育士と調理担当者が積極的に意見交換をし連携しながら食育活動を行っている。	4	3	0	0	A

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
7 保育環境						
	○気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気などに配慮している。	4	3	0	0	A
	○心地良く過せるように、環境を整えている。(清掃、整理整頓、室内装飾、作品展示等)	3	4	0	0	B
	○屋内外の衛生面・安全面に配慮している。	3	4	0	0	B
	○生活の場面に合った保育者の声、音楽などの音に配慮している。	2	5	0	0	B
	○子どもが自ら活動を展開して行けるような場や空間の構成をしている。	0	5	2	0	B
	○季節の変化に応じた環境構成をしている。	0	5	2	0	B
	○子どもの動線や目線に配慮した環境構成をしている。	2	4	1	0	B
8 保育内容						
① 子どもへの理解と受容						
	○子どもに分かりやすい温かな言葉使いで、穏やかに話している。	6	1	0	0	A
	○抑制したり、せかしたりする言葉を必要以上に使わないようにしている。	2	4	1	0	B
	○子どもの伝えようとする事に耳を傾け、何を求めているのかを理解し適切に対応している。	2	5	0	0	B
② 基本的生活習慣						
	○基本的生活習慣については、一人ひとりの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じて対応している。	2	5	0	0	B
	○着脱の自立に向けて年齢や個人差に応じた介助や関わり方を工夫している。	5	2	0	0	A
	○安心して休息〔昼寝〕が出来るように配慮している。	6	1	0	0	A
③子どもの活動への関わり方						
	○子どもの発達段階に即した玩具や遊具を、質・量ともに適切に用意している。	2	5	0	0	B
	○好きな遊びが自由に出来る時間やコーナーを用意している。	2	4	1	0	B
	○身近な動植物に接することにより、命の大切さや季節感など豊かな感性を育むように配慮している。	4	2	1	0	A
	○散歩などを通して地域の方々に接しあいさつや言葉を交わすなどしながら社会性を育む工夫をしている。	5	2	0	0	A
	○絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	5	2	0	0	A
	○身体を使った様々な表現遊びを取り入れている。	3	4	0	0	B
	○様々な素材を使い、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている	2	5	0	0	B
	○年齢に応じ、順番を守る等の社会的ルールを身につけていくように配慮している。	3	4	0	0	B
	○相手の気持ちが分かるような声掛けや働きかけをしている。	2	5	0	0	B
	○色々な運動遊びを工夫しながら取り入れている。	3	3	1	0	B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
④乳児保育						
	○授乳は子どもが欲しがるときに抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	6	1	0	0	A
	○離乳食については家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	4	3	0	0	A
	○オムツ交換の際は優しく声をかけたりスキンシップを取りながら行っている。	6	1	0	0	A
	○一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠が出来るように静かな空間が確保されている。	5	2	0	0	A
	○外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	5	2	0	0	A
	○乳児の発達段階を理解し、個々の成長や場面場面での適切な対応に努めている。	4	3	0	0	A
	○特定の保育士との継続的な関わりが保てるように配慮している。	5	2	0	0	A
⑤長時間保育						
	○子どものその日の様子を職員間で伝達し合い、連絡事項などを確実に保護者に伝わるようにしている。	2	5	0	0	B
	○長時間保育で不安にならないように家庭的な雰囲気を作り、安心して過せるように配慮している。	2	4	0	0	B
	○一人ひとりの子どもの要求に応じて声をかけたり、必要に応じ抱いたり等、ゆったりとした気持ちで接している。	3	3	0	0	A
9 安全・衛生・危機管理						
	○危機管理意識を常に持ち緊急時への対応が整えられている。	2	3	2	0	B
	○緊急な場合に備えての訓練や研修が行われている。	5	2	0	0	A
	○事故防止、安全管理のためのチェックリストを使い定期的に点検、確認が行われている。	3	2	1	0	B
	○食中毒や感染症予防の具体的な取り組みを行っている。	3	3	0	0	B
	○園内に危険な箇所や物がないか、危険な遊び方はないか等、常に確認している。	5	2	0	0	A
10 守秘義務						
	○職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	7	0	0	0	A
11 保護者支援〔入所園児〕						
	○個々の子どもの様子は送迎時に直接話したり連絡帳等を使い伝え合っている。	6	1	0	0	A
	○クラスや子どもの様子、保育のポイント等をクラス便り等で知らせている。	5	2	0	0	A
	○クラス懇談会や個人面談を行っている。	7	0	0	0	A
12 地域への子育て支援						
	○子どもの発達や育児の不安等を気軽に相談できるように育児相談、栄養相談を行っている。	1	6	0	0	B
	○一時保育の際、子ども一人ひとりに丁寧な接している。					未実施

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
13. 特別な支援を要する子どもへの対応						
	○特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	1	4	2	0	B
14. 保育の質の向上 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）						
	○保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	2	5	0	0	B

園全体の評価

【運営】

各クラス保育室はパーテーションで仕切られている。壁のないオープンスペースを利点と捉え、主に朝夕の時間帯や食育イベント・給食などの機会を捉え、異年齢の合同保育を実施しました。

このような機会を重ね、核家族化・少子化の進んだ家庭環境にある園児に兄弟関係を経験させ、年少の子は年長の子に憧れ模倣し、年長の子は年少の子をいたわる気持ちが育まれています。

また保育士間もクラス担当の枠を取り払い、声の掛け合い・協力・連携を活発に行い、よりよい保育をするため子どもの育ちの共有・問題解決にあたることができました。

【保護者支援】

送迎時や連絡帳を通して保護者と子どもの成長について喜びや心配事を共有しています。

担当以外の保育士も保護者との関係作りに努め、時間外の送迎では申し送りノートを作成し確実に保護者へ伝達できるように努めている。

また年二回の個人面談や保育参加の場は園生活への理解を深める機会となった。

貸し図書を設置し、年齢や興味にあった絵本を紹介し親子で読み聞かせの時間を持てるよう支援している。

【環境】

子どもの発達を促すための環境作りについて、戸外での遊び場が狭小で、公園へ出かけても他園がすでに遊んでいて使用できない、「外遊び難民」などの地域特有の課題があります。

解消策として区立保育園と連携し、園庭を開放・交流するなどの機会を得ました。

また限られた中でも自然物にふれられる場所に出かける、虫を探しにいくなど、季節感を経験できるよう努めました。

また戸外遊びに偏らず、園内での生活・遊びが豊かになるような環境づくりを工夫しました。身近な生活用品を使った手作りおもちゃ、手指の巧緻性を促すおもちゃを子どもと一緒に作り、遊びこむなど「遊びと生活が一体」となる環境づくりに向けた第一歩の一年と位置づけます。

来年度の課題

【運営】

～保育所保育指針・全体的な計画の理解・発達援助が十分出ないという結果から～

- ① 保育指針が掲げる対話的で子どもが主体となる保育、自己肯定感を育む保育とは
- ② 全体的な計画を毎日の保育に反映する視点。
- ③ 個々の発達と興味に添いながら、異年齢の子と一緒に楽しめる環境と援助とは。

これらを学ぶことを次年度の課題に挙げ、改善に取り組んでまいります。

具体的にはキャリアアップ研修対象者の研修参加と円滑な参加の為の体制作りを進める。
各分野リーダーは研修で得たスキルを経験年数にかかわらず発揮できる機会と環境を整えてまいります。

今年度、キャリアアップ研修以外の外部研修参加が少なかったため、勤務体制を整え積極的な参加を促してまいります。

またクラス担当間で個々の子どもの今の姿・育ちの共有のための時間を十分に確保し、計画作成と実践・振り返りを実践するよう務めます。

【保護者支援】

感染症発症時の登園基準の発信が曖昧になっていた点を改善し、保護者へ明確に発信し、必要提出書類に周知・理解を求めていくことが課題として挙げられる。

また成長を喜び合うと事と併せ、引き続き子育てについて相談しやすい関係性を築き、課題についても適宜伝えていくように努めます。

【環境】

嘔吐処理対応について、園内研修にてキットとマニュアルを使用して実施しましたが、いざ実践するとなったとき、マニュアル習得が不十分な保育士もいました。

そのため嘔吐の現場で迷ったり、対応が遅れたりということがありました。

処理の手順を全職員が理解し、迅速かつ正確な対応ができるように、繰り返しの研修が必須、次年度に実践いたします。